



図 6.7.3 標準フック等を設ける場合

C. 必要定着長さ l_{ab}

$$(RC \text{ 規準 } 2010) \quad l_{ab} = \alpha \frac{\sigma_t d_b}{10 f_b} \quad (6.7.12 a) \quad *$$

f_b : 付着割裂の規準となる強度で、表 6.7.1 のうち「その他の鉄筋」欄の数値
 σ_t : 仕口面における鉄筋の応力度。当該鉄筋の短期許容応力度を用いることを原則とする。設計で長期応力のみ負担すると考えた部材にあっては、当該鉄筋の存在応力度の 1.5 倍を用いてよい。

d_b : 異形鉄筋の呼び名に用いた数値 (mm)

α : 横補強筋で拘束されたコア内に定着する場合は 1.0、それ以外の場合は 1.25 とする。

S: 必要定着長さの修正係数で、表 6.7.2 による。

* H 23 国告 432 号第 2 の規定に該当する構造計算の基準として扱える³⁶⁾。

$$(H 23 \text{ 国告 } 432 \text{ 号}) \quad l_a \geq l_{ab} = \frac{k\sigma d}{\frac{F}{4} + 9} \quad (6.7.12 b)$$

k : 1.57 (軽量コンクリートの場合は 1.96)

F : コンクリート設計基準強度 (N/mm²)

σ : 鉄筋の短期許容応力度 (N/mm²)

d : 鉄筋の径 (mm)